

科目名	産業・組織心理学 特殊研究	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>職場で従業員が行う職務行動のなかで、自分の「持ち場」ではないが自発的に行う仕事を組織市民行動という。またその逆に、職場のパフォーマンスを阻害し悪化させる行動を組織における反社会的行動という。本講義では、これらの行動の概要、規定要因、研究の最新動向の3点を中心に考察することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 問題発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、悲観的な思考ができる。 リーダーシップ・協働力：集団の中で連携しながら、協働者の力を引き出し、支援できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織市民行動の概要を理解し、組織における重要性を理解することができる。 組織における反社会的行動の概要を理解し、それが組織にどのような影響を与えるのか理解することができる。 本講義で得られた知見と、自分が経験したり見聞きした職場での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 組織市民行動に関する学術文献を検索し、自分の興味に近い学術論文を読んで、レポートに纏めることができる。 組織における反社会行動に関する学術文献を検索し、自分の興味に近い学術論文を読んで、レポートに纏めることができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、manaba folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材 (OER) を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに20時間以上、学術論文の読み込みに10時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに15時間以上を目安とする。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出できるように学習をすすめる。いずれの課題も9月中旬の課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出できるように学習を進める。いずれの課題も令和4年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79 %	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)0点となります。 教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21 %	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出までにレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献(引用文献)と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献(参考文献)とは仕分けて示してください。 基本教材1および2のレポート課題(2)については、英語の翻訳能力を評価するわけではありませんが、日本語としてあまりに不自然なレポートは評価が低くなることは承知しておいてください。くれぐれも、かつて大学入試の受験英語でやった愚直な翻訳のような文章にはしないで下さい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： オーガン, D, ポザコフ, P., マッケンジー, S., 上田 泰 (訳) 教材名： 『組織市民行動』 (白桃書房, 2007年) ISBN:978-4-56-126458-3 3,800円+税
	本書は、組織市民行動に関する2006年時点での最新の研究を紹介し、著者らが行なった組織市民行動の研究を紹介したものである。8章から構成されており、OCB(組織市民行動)の概要とそれが組織に及ぼす影響について述べられている。に分けられ、各章のタイトルは「親切的サム」「OCBの研究：その出発点、構造、分析フレームワーク」「組織理論に見るOCB」「態度と属性にかかわるOCBの先行要因」「OCBに対するリーダーシップと職場環境の影響」「業績評価と業績判断に対するOCBの影響」「組織の業績と成功に対するOCBの影響」「人的資源管理者やOCB研究者への含意」となっている。
参考図書	経営行動科学学会(編)『経営行動科学ハンドブック』中央経済社 2011年(9,600円) ISBN:978-4-50-268750-1 9,200円+税 田中堅一郎『従業員が自発的に働く職場をめざすために 組織市民行動と文脈的業績に関する心理学的研究』ナカニシヤ出版 2004年(5,200円) ISBN:978-4-88-848893-8 5,200円+税 古畑和孝・岡 隆(編)『社会心理学小辞典 増補版』有斐閣 2002(2,300円) ISBN:978-4-64-100218-02,300円+税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。心理学用語がわからない場合は、参考文献に示された辞典を引いて調べる。
レポート課題 1	基本教材1について、2章から8章の各章を要約し、全体についてのコメントを述べる。 留意点： 各章を平均800字を目安に要約し、全体についてのコメントを400字程度で行うこと(合計6,000字で収めること)。
レポート課題 2	基本教材1の2章から8章の文中に引用されている文献のうち、自分の研究テーマと関連あるかもしくは興味関心のあるものを2編選び、各々の論文の内容を3,000字～4,000字でまとめる。 留意点： 学術論文データベース(例えばEBSCO, Science Direct, J-Stage)を用いると、効率よく論文を探ることができる。ただし、データベースに登録されていない論文もある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 田中堅一郎(著) 教材名： 『荒廃する職場/反逆する従業員 職場における従業員の反社会的行動についての心理学的研究』(ナカニシヤ出版, 2008年) ISBN:978-4-77-950281-1 7,500円+税
	本書は、組織における反社会的行動と職場いじめを中心に最新の研究を紹介し、著者自ら行なった実証的研究を紹介したものである。序論から9章と補遺、付録から構成されている。内容は、理論編と実証編に分けられ、各章のタイトルは「序論」「組織における反社会的行動研究のこれまで」「荒廃する職場の犠牲者(その1)」「荒廃する職場の犠牲者(その2)」「組織報復行動についての研究」「組織における反社会的行動の実態を探る」「組織における反社会的行動の測定尺度作成とその規定要因を探る」「再び組織における反社会的行動の規定要因を探る」「職場の迫害に関する研究」「荒廃する職場と反逆する従業員をどうするか」「補遺」「あとがき」となっている。
参考図書	経営行動科学学会(編)『経営行動科学ハンドブック』中央経済社 2011年(9,600円) ISBN:978-4-50-268750-1 9,200円+税 古畑和孝・岡 隆(編)『社会心理学小辞典 増補版』有斐閣 2002年(2,300円) ISBN:978-4-64-100218-0 2,300円+税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。心理学用語がわからない場合は、参考文献に示された辞典を引いて調べる。
レポート課題 1	基本教材2の1章から8章の各章および補遺を要約し、全体についてのコメントを述べる。 留意点： 各章を600～800字を目安に要約し、全体のコメントを400字程度を目安に、合計5,400字～7,000字でまとめる。
レポート課題 2	基本教材2の文中に引用されている論文について、自分の研究テーマと最も近い話題と思われるものを2編選び、各々の論文内容と自分の研究テーマとの関連性を(日本語で)3,000字～4,000字でまとめる。 留意点： 学術論文データベース(例えば、EBSCO-host, Science Direct, J-Stage)を用いると、効率よく論文を探ることができる。ただし、データベースに登録されていない論文もある。

基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	組織市民行動を全体的に理解する (第 1 章, 第 2 章)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	組織市民行動研究の歴史的経緯 (第 3 章)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	組織市民行動の先行要因 (第 4 章)
第 4 回	教材に基づく学修(4)	組織市民行動とリーダーシップ (第 5 章)
第 5 回	教材に基づく学修(4)	組織市民行動と従業員の業績評価 (第 6 章)
第 6 回	教材に基づく学修(5)	組織の業績と組織市民行動 (第 7 章)
第 7 回	教材に基づく学修(6)	組織市民行動研究のこれから (第 8 章)
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	演習課題(1)	自分の研究テーマと基本教材 1 との関連を考え、引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第 11 回	演習課題(2)	検索された論文のうち、最も関心のある論文を 2 編選択する。
第 12 回	演習課題(3)	選択された論文 (1) を要約する
第 13 回	演習課題(4)	選択された論文 (2) を要約する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	組織における反社会的行動を全体的に理解する (第 1 章)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	荒廃する職場の犠牲者 (第 2 章, 第 3 章)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	組織報復行動 (第 4 章)
第 4 回	教材に基づく学修(4)	組織における反社会的行動の実態 (第 5 章)
第 5 回	教材に基づく学修(5)	組織における反社会的行動の測定尺度作成とその規定要因 (第 6 章)
第 6 回	教材に基づく学修(6)	組織における反社会的行動の規定要因 (第 7 章)
第 7 回	教材に基づく学修(7)	職場の迫害, 職場いじめ (第 8 章)
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	演習課題(1)	自分の研究テーマと基本教材 2 との関連を考え、引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第 11 回	演習課題(2)	検索された論文のうち、最も関心のある論文を 2 編選択する。
第 12 回	演習課題(3)	選択された論文 (1) を要約する
第 13 回	演習課題(4)	選択された論文 (2) を要約する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成